

平成29年度

# 学校評価アンケート資料

《教員・生徒・保護者》

大阪商業大学高等学校

平成29年度 『学校評価』 アンケート結果

(資料) 学校評価アンケート内容

※教員・生徒・保護者で表現が若干異なりますが(主語の違い)、内容は下記となります

1. 学校の雰囲気がよい ----- <高校生活全体>
2. あいさつに溢れる学校である ----- <高校生活全体>
3. 自分のクラスが楽しいと感じている ----- <高校生活全体>
4. コースの取り組みには満足している ----- <高校生活全体>
5. 多様な資格取得ができるのでよい ----- <高校生活全体>
6. 本校の教員は教育熱心である ----- <高校生活全体>
7. 授業がわかりやすいと感じている ----- <学習>
8. 授業を意欲的に取り組んでいる ----- <学習>
9. 授業・模擬試験が進路に対応している ----- <進路指導>
10. 進路に必要な情報は適切に提供されている ----- <進路指導>
11. 先生は悩みを親身になって聞いてくれている ----- <生活指導>
12. 生徒に対する学校の規則は妥当である ----- <生活指導>
13. 生徒は学校の規則を守っている ----- <生活指導>
14. 生徒は生活指導について納得している ----- <生活指導>
15. 授業のベル着は守っている ----- <生活指導>
16. 学校行事は楽しく充実している ----- <行事>
17. 部活動は活発で充実している ----- <行事>
18. 校内の施設設備はよく整備されている ----- <その他>
19. 入学してよかった ----- <その他>

学校評価（生徒学年別）数字は%	学校評価（三者比較）数字は%
-----------------	----------------

①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらかといえばそう思わない ④そう思わない

1. 学校の雰囲気がよい					1. 学校の雰囲気がよい				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	20	<b>48</b>	20	12	保護者	33	<b>55</b>	10	2
第1学年	13	<b>54</b>	21	12	教員	19	<b>35</b>	27	19
第2学年	<b>41</b>	<b>37</b>	14	8	生徒(男)	21	<b>47</b>	20	12
第3学年	<b>51</b>	37	8	4	生徒(女)	17	<b>50</b>	22	11

2. あいさつに溢れる学校である					2. あいさつに溢れる学校である				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	<b>40</b>	<b>36</b>	16	8	保護者	30	<b>53</b>	13	4
第1学年	19	<b>40</b>	23	18	教員	10	<b>37</b>	<b>32</b>	21
第2学年	<b>43</b>	<b>38</b>	14	5	生徒(男)	<b>44</b>	34	14	8
第3学年	<b>40</b>	<b>37</b>	15	8	生徒(女)	27	<b>46</b>	21	6

3. 自分のクラスが楽しいと感じている					3. (生徒は) 自分のクラスが楽しいと感じている				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	<b>47</b>	<b>37</b>	10	6	保護者	<b>41</b>	<b>41</b>	13	5
第1学年	<b>40</b>	<b>39</b>	12	9	教員	21	<b>62</b>	15	2
第2学年	<b>49</b>	36	9	6	生徒(男)	<b>48</b>	37	9	6
第3学年	<b>51</b>	36	9	4	生徒(女)	<b>43</b>	<b>36</b>	14	7

4. コースの取り組みには満足している					4. コースの取り組みには満足している				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	<b>39</b>	<b>42</b>	12	7	保護者	34	<b>53</b>	10	3
第1学年	32	<b>46</b>	15	7	教員	13	31	<b>43</b>	13
第2学年	<b>39</b>	<b>42</b>	10	9	生徒(男)	<b>40</b>	<b>41</b>	11	8
第3学年	<b>48</b>	37	10	5	生徒(女)	36	<b>46</b>	14	4

学校評価（生徒学年別）数字は%	学校評価（三者比較）数字は%
-----------------	----------------

①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらかといえばそう思わない ④そう思わない

5. 多様な資格取得ができるのでよい					5. 多様な資格取得ができるのでよい				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	27	<b>44</b>	20	9	保護者	<b>33</b>	<b>48</b>	16	3
第1学年	24	<b>44</b>	23	9	教員	7	<b>45</b>	<b>41</b>	7
第2学年	26	<b>48</b>	18	8	生徒(男)	28	<b>42</b>	20	10
第3学年	<b>34</b>	<b>38</b>	19	9	生徒(女)	26	<b>48</b>	22	4

6. 本校の教員は教育熱心である					6. 本校の教員は教育熱心である				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	30	<b>42</b>	18	10	保護者	35	<b>49</b>	13	3
第1学年	28	<b>46</b>	18	8	教員	21	<b>53</b>	11	15
第2学年	28	<b>39</b>	20	13	生徒(男)	32	<b>41</b>	17	10
第3学年	<b>34</b>	<b>42</b>	16	8	生徒(女)	33	<b>44</b>	17	6

7. 授業がわかりやすいと感じている					7. 授業がわかりやすいと感じている				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	17	<b>45</b>	25	13	保護者	11	<b>55</b>	28	6
第1学年	11	<b>50</b>	25	14	教員	23	<b>48</b>	26	3
第2学年	15	<b>41</b>	29	15	生徒(男)	18	<b>43</b>	25	14
第3学年	26	<b>45</b>	21	8	生徒(女)	14	<b>52</b>	25	9

8. 授業を意欲的に取り組んでいる					8. (生徒は) 授業を意欲的に取り組んでいる				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	26	<b>48</b>	20	6	保護者	20	<b>50</b>	23	7
第1学年	22	<b>50</b>	22	6	教員	3	21	<b>51</b>	26
第2学年	22	<b>51</b>	20	7	生徒(男)	26	<b>48</b>	20	6
第3学年	34	<b>44</b>	18	4	生徒(女)	26	<b>49</b>	20	5

学校評価（生徒学年別）数字は%	学校評価（三者比較）数字は%
-----------------	----------------

①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらかといえばそう思わない ④そう思わない

9. 授業・模擬試験が進路に対応している					9. 授業・模擬試験が進路に対応している				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	<b>28</b>	<b>46</b>	18	8	保護者	16	<b>59</b>	21	4
第1学年	29	<b>52</b>	14	5	教員	4	<b>46</b>	35	15
第2学年	29	<b>41</b>	20	10	生徒(男)	30	<b>43</b>	17	10
第3学年	<b>36</b>	<b>41</b>	16	7	生徒(女)	22	<b>53</b>	21	4

10. 進路に必要な情報は適切に提供されている					10. 進路に必要な情報は適切に提供されている				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	35	<b>46</b>	13	6	保護者	27	<b>53</b>	17	3
第1学年	29	<b>52</b>	14	5	教員	14	<b>62</b>	18	6
第2学年	33	<b>45</b>	14	8	生徒(男)	<b>37</b>	<b>45</b>	12	6
第3学年	<b>46</b>	<b>39</b>	10	5	生徒(女)	31	<b>49</b>	16	4

11. 先生は悩みを親身になって聞いてくれている					11. 先生は悩みを親身になって聞いてくれている				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	27	<b>42</b>	21	10	保護者	28	<b>52</b>	17	3
第1学年	20	<b>43</b>	25	12	教員	21	<b>60</b>	18	1
第2学年	25	<b>45</b>	21	9	生徒(男)	33	<b>44</b>	20	3
第3学年	<b>38</b>	<b>39</b>	15	8	生徒(女)	30	<b>41</b>	18	11

12. 生徒に対する学校の規則は妥当である					12. 生徒に対する学校の規則は妥当である				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	30	<b>40</b>	20	10	保護者	34	<b>55</b>	9	2
第1学年	29	<b>41</b>	18	12	教員	26	<b>42</b>	19	13
第2学年	24	<b>41</b>	23	12	生徒(男)	<b>32</b>	<b>41</b>	17	10
第3学年	<b>38</b>	<b>36</b>	19	7	生徒(女)	25	<b>38</b>	26	11

学校評価（生徒学年別）数字は%	学校評価（三者比較）数字は%
-----------------	----------------

①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらかといえばそう思わない ④そう思わない

13. 生徒は学校の規則を守っている					13. 生徒は学校の規則を守っている				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	<b>55</b>	35	7	3	保護者	<b>54</b>	40	5	1
第1学年	<b>55</b>	37	5	3	教員	3	25	<b>40</b>	32
第2学年	<b>53</b>	35	8	4	生徒(男)	<b>59</b>	32	6	3
第3学年	<b>58</b>	32	8	2	生徒(女)	<b>45</b>	<b>43</b>	9	3

14. 生徒は生活指導について納得している					14. 生徒は生活指導について納得している				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	29	<b>39</b>	19	13	保護者	34	<b>51</b>	12	3
第1学年	28	<b>40</b>	19	13	教員	13	<b>46</b>	28	13
第2学年	25	<b>43</b>	17	15	生徒(男)	<b>31</b>	<b>39</b>	17	13
第3学年	<b>34</b>	<b>33</b>	20	13	生徒(女)	23	<b>38</b>	25	14

15. ベル着を守っている					15. ベル着を守っている				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	<b>54</b>	33	9	4	保護者	----	----	----	----
第1学年	<b>50</b>	37	10	3	教員	1	<b>40</b>	<b>40</b>	19
第2学年	20	<b>42</b>	23	15	生徒(男)	<b>55</b>	31	9	5
第3学年	<b>34</b>	<b>37</b>	18	11	生徒(女)	<b>49</b>	38	11	2

16. 学校行事は楽しく充実している					16. 学校行事は楽しく充実している				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	30	<b>40</b>	19	11	保護者	32	<b>53</b>	12	3
第1学年	24	<b>42</b>	21	13	教員	11	<b>57</b>	28	4
第2学年	<b>32</b>	<b>37</b>	15	16	生徒(男)	<b>32</b>	<b>38</b>	18	12
第3学年	<b>37</b>	<b>35</b>	18	10	生徒(女)	<b>25</b>	<b>45</b>	21	9

学校評価（生徒学年別）数字は%	学校評価（三者比較）数字は%
-----------------	----------------

①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③どちらかといえばそう思わない ④そう思わない

17. 部活動は活発で充実している					17. 部活動は活発で充実している				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	<b>33</b>	<b>36</b>	15	16	保護者	31	<b>51</b>	15	3
第1学年	<b>27</b>	<b>33</b>	18	22	教員	29	<b>50</b>	10	11
第2学年	<b>32</b>	<b>37</b>	15	16	生徒(男)	<b>34</b>	<b>33</b>	15	18
第3学年	<b>44</b>	34	11	11	生徒(女)	<b>32</b>	<b>41</b>	16	11

18. 校内の施設設備はよく整備されている					18. 校内の施設設備はよく整備されている				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	15	<b>29</b>	<b>26</b>	<b>30</b>	保護者	22	<b>51</b>	19	8
第1学年	11	<b>32</b>	<b>29</b>	<b>28</b>	教員	11	14	29	<b>46</b>
第2学年	12	<b>27</b>	<b>23</b>	<b>37</b>	生徒(男)	16	<b>27</b>	23	<b>34</b>
第3学年	<b>23</b>	<b>28</b>	<b>23</b>	<b>26</b>	生徒(女)	13	<b>35</b>	<b>29</b>	23

19. 入学してよかった					19. (生徒は)入学して(させて)よかった				
	①	②	③	④		①	②	③	④
全学年	23	<b>41</b>	21	15	保護者	<b>33</b>	<b>55</b>	10	2
第1学年	19	<b>40</b>	23	18	教員	17	<b>58</b>	25	0
第2学年	20	<b>42</b>	23	15	生徒(男)	23	<b>39</b>	21	17
第3学年	<b>34</b>	<b>37</b>	18	11	生徒(女)	25	<b>42</b>	22	11

## 平成29年度 「学校評価」 アンケート結果

### ○高校生活全般について○（Q1-6）

「学校の雰囲気について」の質問に対して、生徒・保護者は概ね肯定的な回答であるが、生徒および教職員の約3割が否定的な数値となっている。その詳細をリサーチし、改善に努めて行く必要がある。

「あいさつに溢れる学校」については、生徒からの肯定的意見は全体的に見て高いが、第1学年の数値は4割以上が否定的である。入学時に挨拶の大切さや挨拶行動の実践を行い、習慣化していくことが必要である。また教職員は否定的な数値が高い。数年前からの取り組みとして、行っているものがあるが、さらに現状に満足せず、もっとあいさつに溢れるキャンパスを創りだしたいという気持ちの表れと言えよう。

学校生活の根幹となっている「クラス活動」については、概ね肯定的な回答が出されていることは評価できる。学年が進んでいくにつれて、肯定的な数値が増えていくことは評価に値する。クラス活動を豊かなものにするという生徒たちの考えと、学級担任の努力の結果と言える。

「コースの取り組み」について、生徒は概ね肯定的な回答であるが、教員は否定的数値が高くなっている。教員側の描いているコース像と生徒のものとの相違が生じている可能性も考えられる。生徒へのコースコンセプトの更なる理解を促し、教員側のコースコンセプト達成のための取り組みの意志共有と強化が必要である。

「資格取得の多様性」は生徒、保護者は肯定的数値が出ているが、教員側の数値の否定色が強い。各種検定への合格率の向上のみが、否定色の払拭につながる。資格取得をメインに掲げているグローバル商大コースの充実にも繋がる項目であるので、教科のみでなく、学校全体で考えていくことが急務である。

「教員の教育熱心」についても概ね肯定的な回答が出ている。さらにその数値が上がるように、学校として努力を継続する必要がある。

### ○学習について○（Q7-8）

「授業のわかりやすさ」について、生徒の肯定的回答が約6割、授業が学習活動の根幹であるがゆえに、4割近くが否定的数値であることは問題視する必要がある。学校は学習する場であるのでその数値を肯定的なものに変化させていくことが必要であり、その改善のためにリサーチしていく必要がある。外部の教科指導研修会などへの参加も以前よりも増えているが、まずは公開授業の有効活用や、教科内での勉強会など校内での授業充実の気運を高めていくことも必要である。また生徒の意見にも耳を傾け、さらに充実を図ることも必要である。

「授業への意欲的な取り組み」は生徒・保護者と比較して、教員の意見が厳しいものとなっている。生徒の授業に対するモチベーションの向上への仕掛けは教員の工夫が一番有効である。生徒たちが学習の楽しさ、知識をつけることの充実感など、気付けるような工夫を教員側が行っていくことが必要である。

### ○進路指導について○（Q9-10）

「授業・模擬試験の進路への対応」について、生徒の回答は概ね良好であるが、教員の回答は否定的なものが多い。系列校、指定校、AO入試など学科試験が課せられない入試制度を利用している生徒が多く、教員の思いとして、授業で培った学力・知識を用いてチャレンジしてほしいという気持ちとのギャップがあると考えられる。また模擬試験の内容も中位以下の生徒にとってはフィードバックがされにくい状況にあり（弱点などの把握が難しい）、点数や偏差値だけにとらわれない、自身の理解度を測るテスト

トの実施も考えて行く必要があると思われる。「進路情報の提供」については、進路指導部を中心に、進路ガイダンスや将来を考えさせる機会を提供しており、概ね肯定的な回答を得ている。また保護者対象の説明会などの機会も増えた。進路やキャリアに関する情報を提供し、選択肢を広げるために指導を強化したいという気持ちの表れであると分析できる。

### ○生活指導について○（Q11-15）

「教員は悩みを親身になって聞いてくれる」は三者（生徒・保護者・教員）ともに肯定的回答が大部分を占めている。学校方針でもある、日ごろのきめ細やかな教育活動の成果であると評価できる。「学校の規則の妥当性」については、予想以上に肯定的な数値が高かったと分析できる。校則を全教員一枚岩になって、遵守させる指導を行っていくことが、今後更に肯定的な数値を高めていくことに繋がっていくと思われる。「生徒が規則を守っている」は生徒の数値と教員の数値に大きな差が生じている。校則を守っている生徒の方が多いたが現状であるが、校則を守っていない生徒に対する指導に多くの労力を費やしていることも要因の1つである。「生徒は生活指導に納得している」に関しては、生徒は40%前後が否定的にとらえている。『指導する』側（教員）と『指導される』側（生徒）の立場の違いはあるが、その数値を近づけていくために取り組みが必要である。「ベル着を守っている」について、生徒は概ね肯定的な回答であるが、その一方教員は否定的な回答となっている。生徒は授業開始のベルが鳴った際には教室に居ることをベル着にとらえている傾向にあり、その反面教員はベルと同時に授業を開始するという意味でとらえているギャップがあると考えられる。生徒・教員ともに「50分間しっかり授業を行う（受ける）」意識を共有することが基本である。

### ○高校生活全般・行事・その他について○（Q16-19）

「学校行事」「部活動」について、肯定的回答が多数を占めた。有意義な高校生活を過ごしていくために大事な要素であるので、さらにその数値を伸ばしていくために、生徒自治会を中心に取り組んでいく。

「校内施設設備」については、否定的な回答が目立つ結果となった。現存の施設の有効的使用および生徒の美化意識向上に努めること、また並行して長期的な施設の改善を検討することも必要である。自由記述で施設面についてのコメントが多く、その中でもトレーニングルームが高校敷地内にないことの不便が多かったが、対応について検討中である。

「入学して（させて）よかった」については、概ね肯定的意見が多数を占めている。最終学年の第3学年の数値が向上するよう目指さなければならない。生徒、保護者の満足度が高まるポイントは何であるのか検証し、それに向けて実践していくことが必要である。また本校の募集活動にもリンクしていくことになるので、全教員で取り組んでいく。

### ◎まとめ◎

クラス活動、クラブ活動、学校行事など“楽しい”と評価できる項目については日頃の教育活動が実を結んでいると思われるが、生活指導面や学習面など、“しんどい”“面倒”“苦労・努力”が必須になる項目については否定的回答はまだ多く、教員・生徒ともに意識を変えていく必要性が急務である。

“しんどい”“面倒”“苦労・努力”を乗り越えたあとの成長や成果などが具現化できるような取り組みが必要である。

また、施設設備については引き続き、年次計画を立てながら、徐々に改善していくことが必要である。

平成 30 年 3 月 17 日(土)

9:30～11:00

議長 西田 博

書記 基江みどり

## 大阪商業大学高等学校

### 2017 年度 学校評価委員会議録

#### 1. 参加者紹介

本校教職員 : 校長 好永 保宣 ・ 副校長 阪口 耕次 ・ 教頭 西田 博

教頭補佐 小守 良昌 ・ 事務長 入口 智

学校評価委員 天野 隆夫 ・ 松田 周 ・ 松村 真史 ・ 生徒自治会顧問 基江 みどり

本校生徒 : 生徒自治会書記 越智 仁那(2年) ・ 広報 齋藤 祐人(2年)

近隣地域 : 御厨南自治会長 井形 繁明

本校 P T A : 会長 池田 宗治 ・ 副会長 今西 良章

大阪商業大学 : 教授 佐野 茂 ・ 教務課長 田畑 麻貴子

#### 2. 学校長挨拶

#### 3. 「学校評価アンケート資料」の説明(別紙参照)

教員・生徒・保護者アンケートを以下の観点でまとめた平成 29 年度「学校評価アンケート結果」について小守より説明があった。昨年度のアンケートは肯定的な意見が多かったが、昨年度に比べて今年度は否定的な意見が若干増えている。

- ◆ 学校生活全般について(Q1-6)
- ◆ 学習について(Q7-8)
- ◆ 進路指導について(Q9-10)
- ◆ 生活指導について(Q11-14)
- ◆ 高校生活全般・行事・その他について(Q15-19)
- ◆ 「ベル着」について(生徒・教員のみ対象)
- ◆ まとめ

※説明の後、資料に関する質問は特になかった。

#### 4. 意見交換

参加者より、アンケート結果について・日頃感じていることなどを述べてもらった。

□アンケート全体について

教員の意見が厳しいことに対しては、視点の違いや目標の高さであると考えられる。否定的な意見が増えた事に対しては「2年生になると1年生時よりも、授業態度も悪くなり欠点者も増えているからでは」「染髪・ピアス・スカート丈などの校則を守らない生徒も目立つので Q3 については教員の意見が妥当ではないか」などの意見があった。また、本校のイメージとして「大阪商業大学の卒業生の中に企業家がたくさんいるため、高校についても選択の自由の中から自分で決める事が出来る、骨の太い生徒が育つ学校というイメージがある」というありがたい意見も頂いた。

#### □生活指導について

本校のスマートフォンや携帯電話の取り扱い、授業時間は電源を切って鞆に入れておき、授業時間以外の使用は自由となっている。一部の担任は朝礼時から終礼までの間は携帯を預かる・教室内に携帯を置く場所を設置し、授業中はそこに置くなどの指導をしているが、クラスによって差がある。その事に対して「他校はもっと厳しいと聞いている。登下校の心配があるのでそこまで厳しくする必要はないが、学校で預かる・学校では鞆から出さないよう指導するなど、もっと厳しくすれば、授業中にさわる・試験中にポケットに所持してしまう(カンニング行為とみなされる)などの事が起こらないのではないか」という意見があった。また、「自分で選択できる、自分で決められるようにならないといけない」「18歳で選挙権を得るため『18歳は大人である』と考えるならば、スマホなどの管理を自分で出来るようになる様な教育が必要である」「『自主的』という点については大切にしたい方がよい」という現状を肯定的にとらえ、指導してほしいという意見もあった。

Q14の女子が校則について納得していない傾向があることに対して「女性の意見は、状況を敏感に感じている事が多い。何について納得できていないのかが気になるし、話を聞いてあげた方がよい」「女子の身だしなみとしての化粧は注意されるが、男子のヘアワックスなどは注意されないなど、女子に厳しいと感じているという意見もある」「化粧を注意されることに不服があるなら、自己表現の追求として年に一度、化粧を出来る日を設けるなど考えてみる事も良いかもしれない」「化粧を『注意する教員』『注意しない教員』がいる事が、生徒が納得していない理由の一つにある」「男子校から始まり、女子が少ない学校だったので、女子の指導に苦労してきた経緯がある」などの様々な意見が出た。教員の指導の差異については、学校が組織として再確認し、振幅幅を修正していくよう努力していかなければならない。

#### □学習について

否定的な数字が多かったことに対しては「本人の理解力不足の場合もあるが、担当教員の指導力によって差があることも確かだ」「クラスによって平均点の差がある」「授業が分かりにくい場合は、You tubeに頼って勉強している」などの意見が出た。学校で勉強をするという事は、本来の責務であるため、自覚を持って取り組んでいかないとはいけない。

商大コースに在籍する生徒は、毎年100名ほど系列校に進学している。資格取得の中でも、商大コースの1年生は必修・2年生は選択科目になっている簿記検定に対して「商大高校の商大コースに在籍しているからには、大阪商業大学の授業の免除(日商簿記検定2級を取得した生徒に限る)もあるため、せめて簿記検定は必ず取得してほしい」という意見があった。また「検定の合格率について、ほぼ全員合格するクラスもあれば、合格率が1%未満のクラスもありクラスによって差がある」という厳しい意見があったため、検定前、放課後に勉強会を開くなど、資格取得に取り組む姿勢を学校・コース全体から発信していく事を検討していきたい。デザイン美術コースでは色彩検定の受験、全コースの英語検定の資格取得に力をいれていることなどに対して、大学からは「資格があるから就職が有利なのではなく、資格を生かした就職が出来る事が魅力であり、資格取得を『強制』でさせるのではなく『なぜ必要なのか』を生徒自身が理解する必要がある」また「近年『してもらおう事を待っている生徒』が増えてきていることから『自発的に行動できる生徒』に育つよう誘導してほしい」との意見を頂いた。

担当教員・担任に対する個人的な意見も多数あり、アンケート結果を教育活動に活かしていきたい。

#### □その他

主権者教育についてはどの様に指導しているのか質問があり、学校側から「主権者教育を行うよう、行政

から通達を受けており、3年生には総合を利用して指導した。政党や政治的な話に触れずに指導しないといけない。」との回答に「政治的なことなども気にせず指導していた時代もあるが、今の時世では難しい。しかし指導する事に遠慮があると、生徒の将来の判断力に影響する。生徒と教員の関係性を作っていく事が大切だ。」という意見を頂いた。他にも「体育館の形については、商大高校のバレー部の伝統である天井サーブをするためにと聞いているが、今後体育館を建てかえることはできないのか」という生徒の意見に対して、学校側から「建物の高さについての法律などの問題で建て替える事が出来ない。」という解答があった。地域貢献としてはデザイン美術コースの生徒が、車いすの清掃作業のボランティアの参加や東大阪ふれあい祭りのパレードの参加、吹奏楽部もふれあい祭りに参加している。また、クラブ員が早朝に学校周辺のゴミを拾っている事に対しても「たとえ、学校周辺だけだとしても、必ず見てくれている人がいて、良いイメージがひろがる。」との意見を頂き、地域から高校生の方が必要なときは、声をかけてほしいとお願いした。オリンピック選手が先輩にいたり、同級生がスポーツで活躍したりという事も大事だが、生徒ひとりひとりが将来活躍していく事は、地域貢献にもなるため今後も期待し指導していきたい。

#### □まとめ

今回の会議も、活発な意見交換がなされた。全体を通して、本校の取り組みにご理解いただいております、生徒の自主性を育てる教育を、教員が本気で指導していく事が重要であると考えさせられた。今後も多方面の方々のご理解とご協力に感謝し、教育活動を行っていききたい。